

PO21R001

2009年1月15日

## 「美の道具」 筆や刷毛など約 150 点を展示協力

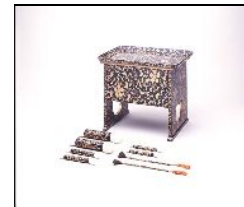
### 五島美術館 特別展『筆の美』 2月21日から開催

ポーラ文化研究所は2009年2月21日(土)～3月29日(日)まで五島美術館で開催される特別展『筆の美』に展示協力します。今回、『筆の美』展ではポーラ・コレクションの中から、江戸から昭和初期頃の筆や刷毛、関連化粧道具、化粧風俗の浮世絵、文献など約150点を展示協力します。併せて、展覧会初日に開催される討論会『筆づくりフォーラムin Tokyo』の第二部では「化粧の筆」と題し、ポーラ文化研究所の学芸員による化粧筆の変遷について解説を行います。

歴史的にふりかえってみると筆や刷毛は化粧のできばえを大きく左右するものでした。江戸時代、上流階級では『こんれいどうぐしよきかたすんぼうがき婚礼道具諸器方寸法書』などの書物が記され、そこには白粉、口紅、お歯黒用のさまざまな筆や刷毛が寸法、図入りで紹介されています。また、庶民の間でも化粧が盛んとなり、当時のメイクアップ方法を紹介した『みやこふうぞくけわいでん都風俗化粧伝』が刊行され、刷毛の使い方などが解説されました。

明治以降は洋風化粧導入とともに、肌、眉、唇化粧が多様となり、フェイスブラシ、チークブラシ、眉、まつげ、口紅用など筆や刷毛が多様化していきました。

ポーラ・コレクションやフォーラムを通じて筆や刷毛がいかに大切な「美の道具」として使われてきたかをご紹介します。



梅鉢紋刷毛台と刷毛、筆セット  
(江戸時代)



婚礼化粧道具の刷毛掛台と刷毛  
(明治時代)

ポーラ文化研究所は1976年の設立以来、「化粧・女性・美意識」をキーワードに東洋・西洋の化粧史など化粧にまつわる幅広い研究活動を行っており、研究活動で得た資料として文献資料は15,000冊、化粧道具や装身具は約6,500点を数えます。また、研究の成果や化粧文化に関する情報は、文化・社会貢献活動の一環として、ホームページや展覧会への展示協力を通じ、広く社会に発信し続けています。

リリースに関するお問い合わせ

グループ広報室 TEL 03-3494-7653 / FAX 03-3494-7391

展覧会に関するお問い合わせ

ポーラ文化研究所 TEL 03-5795-0941 / FAX 03-3280-8891